



第15回ファミリー電波教室

JA3PYC 山本 哲夫

元ガールスカウトの家にからガールスカウトは年齢層が広いと聞いていましたが、行ってみると、何と3世代もいるではないですか。ゲルマニウムラジオの組み立てをされたお嬢さんは16名でしたが、保護者の方、ボランティアの方を含めて総勢40名もの電波教室でした。中には、長野、奈良から来られた方が居られて、電波教室への関心の高さが実感させられました。



ファミリー電波教室は、去る8月29日に、河内長野市の三好市公民館で行われました。三好さんご夫妻、幡井さんの挨拶の後、杉山さんの電波実験。磁石はアルミの板の上を転がるとスピードが遅くなるとは知りませんでした。理由を聞いてなるほどと思いましたが、実際に見てみると、どこにどう電流が流れて逆極性の磁力が出てと頭の中はパニック状態でした。



磁気、電流と進んでいよいよ電波です。普段から、やたらと発射している電波ですが、改めて考えると、何がなんだか良く分からない。430MHzのゲルマニウムラジオを作り、電波を受信してみると、どうやらアンテナから何かが出ているらしい。アンテナ同士を近づけると声が良く聞こえる。ガール

スカウトのお嬢さん方も電線が無くても、電波で声を送れることを実感されていました。この430MHzのゲルマニウムラジオは感度抜群で、建物の外でも声が聞こえたらしいです。子供たちが、ゲルマニウムラジオを片手に走り回っている様子は、とても楽しそうで、電波教室に参加できて良かったと思いました。



最後に荒川さんから英国のガールガイド活動とアマチュア無線活動が紹介され、参加された方々の楽しそうな写真が紹介されました。今回、かなりの方が電波に、そしてアマチュア無線に興味を持たれたと思います。次は、なんとかして免許取得のお手伝いをしたいものです。



電波教室が始まる前の実験で、3エレ八木の凄さを知りました。八木アンテナの後ろでは検波器のランプが点かないのに、前では煌々と点っています。これは、私の所で何も聞こえなくてもJA3BOA乾さんの所では信号が聞こえる怪現象にそっくりです。

また、ビデオによる電波君の電波の解説の後で、三好さんの電波はどこで使われていますかの質問に、小学2年生がETCと答えたのには、びっくり仰天しました。彼女たちにとって、モールスも和文もなんとこの事も無いのかもしれない。



1952年の思い出

JA3AA 島 伊三治

2004年オリンピック・アテネ大会も無事終了



し日本選手団は素晴らしい活躍で史上最多の37個メダルを獲得しました。しかしここに至るまでの個人や各団体の努力の状況がいろいろ報じ

られていますが、趣味の世界であっても若い世代を対象として長い時間をかけて育て上げる地道な努力が我々にも必要なのかと思いました。

オリンピックが開催されると必ず思い出すのが1952年のヘルシンキ大会です。1952年はサンフランシスコ講和条約が発効し日本が独立した年で、アマチュア無線が解禁された年であると共に、オリンピックもヘルシンキ大会が戦後初めての参加でした。そのオリンピック期間中に予備免許がおりたので覚えているのです。ヘルシンキ大会では男子のレスリングが活躍し金メダルを得たと記憶しています。私は、いまJARLのQSLビューローから送られてきたカードの整理を一生懸命おこなっています。1年余り未整理だったものから随分溜まっていますが、その中に1952年に纏わるカードが2枚見つかりました。その1枚OH0BのQSLカードはヘルシンキオリンピックのシンボルタワーの写真で五輪のマークをつけた建物で五輪マークの下に1952と書かれています。シンボルタワーの高さは72mあるようです。もう1枚は、GQ3TXFの2002年QSOのカードでエリザベス女王の在位50周年を記念して、GQの特別プリフィックスのもの、エリザベス女王は1952年に即位されています。

私の1952年は、2月29日申請書提出、7月29日予備免許、8月1日試験電波発射、8月5日新設検査合格、8月27日免許、9月2日22:15GMT 14MHzCWでDU1CEとQSO、となっています。

JR3IXB/VP9

8月26日～30日

Bermuda から運用

運用記事

来月号に掲載予定!



大阪市内～堺市内を走る路面電車

JP3AZA 河田至弘

の時に見ていた色と同じ(少なくとも50年前と同じ塗装)になり、車両には広告がなくなってしまいました。これを見たときは嬉しかったですね。そのときはカメラをもっていなかったので、これを撮り逃してはなるものかとその後しばらく161型の"追っかけさん"をすることにしました。電鉄会社の経営的な問題は別として私は周りの景色の中に溶け込んでいる路面電車の姿はなんともいえない感じがしています。歴史のある阪堺電鉄の路面電車は生まれ育った町の風景の一部になりきっていて広告でその雰囲気が消えてしまうのは非常に残念なことと思っています。

阪堺電鉄はその経営難から堺市内を走る路線部分を廃止するような話が出ているようで、思い出のある路面電車が部分的にしろ無くなっていくというのは寂しい限りです。貧者の一灯ですがやはりみんなが乗らないと経営が成り立たないので私は実家へ行くときには出来る限りこの路面電車を利用することにしています。最後に昔ながらの姿に戻った阪堺電鉄の強者162と163の勇姿及び最新型車両である711および駅風景等を写真で見てください。

私の実家は住吉大社近くにあり、通っていた小学校も中学校もこの近くにあります。とくに小学校は南海本線が近くを走り、そのすぐ東側には当時の南海電鉄阪堺線(現阪堺電気鉄道)が走っています。殆ど毎日のように電車を眺め、同級生とは模型を作り、小学校の帰りには住吉公園駅付近で電車を眺めていることが多かったと記憶しています。振り返って見れば私の鉄道趣味はこの時分から始まっていたのでしよう。

阪堺電鉄は日本橋近くの恵美須町～堺市の浜寺までの阪堺線と天王寺駅前～住吉公園までの上町線の2路線が現在運行されていて、一部専用軌道、一部路面を走っています。昭和55年に南海電鉄から分離独立して現在は南海電鉄の100%子会社となっています。

さて、その阪堺電鉄の車両の中でも子供の頃から印象に残っている161型という車両があり、今回の私の鉄道物語はこの161型についてです。

この161型は(161~170、類似機種に171~175)私よりも年上の1928年に川崎車両で製造されています。まだこのころは平野線、三宮線、大浜支線も運行されていて戦中、戦後のどたばたでの統合、再編成前の路面電車はなやかなりし時代に花形としてデビューした車両です。普通だったらとっくの昔に廃車になっていても不思議ではありませんが、嬉しいことにいまだに運行されています。



163 住吉 この色はいやらしい



昔の塗装になった163 聖天下駅

私の印象では、この161型という車両は「これこそ路面電車!」と言えるような雰囲気をもって、実家へ行った折にたまたま乗り場で待っているときにこの車両が来ると妙に嬉しくなり、子供の頃から時間が止まってしまっているような感じがしていました。しかし、阪堺電鉄の車両にもいろいろな時期がありました。私が一番嫌な感じがしたのは電車が「動く広告塔」となり、広告収入もさることながら殆どの車両の両サイドには広告べたべたで走るようになったことでした。例に漏れずこの161もその優雅な雰囲気はどこえやら、広告べたべたのきたならしい姿で市内を走っていました。ところが昨年あたりから全車両ではありませんがこの161型の塗装が変わったのです。この会社に何ががあったのか判りませんが、突如として塗装が変わり、私の子供



175 50年前と同じ住吉公園駅風景



我孫子道車庫 711



路面から専用軌道に入る711 住吉



阪堺電鉄恵美須町駅前より見る通天閣



162 住吉



昔の塗装になった162 住吉駅



阪堺電鉄 恵美須町駅

2004年 ハムフェア特集



アマチュア無線健在なり

JA3UB 三好 二郎

8月半ば過ぎの東京出張の折りに「ハムフェア2004」が開催されていたので立ち寄りてきた。1977年、富士山麓朝霧高原での第1回目以来何度か出かけたことがあるが、今回は第三者的にアマチュア無線界を眺めてみた。

出展者数は企業やクラブ合わせて175団体、来場者は20カ国2万7千人だったそうだ。各クラブブースは活気があり、また制服姿の高校生達が熱心に活動していて、それに声援を送る人たちも居て、一時アマチュア無線ブームといわれてニセものハムが横行した往時の姿は影を潜め、カモが減ったせいメーカーさんはいまひとつ元気が無いようであった。

1970年代に近畿電波監理局に在職し、近畿で2m SSB免許第1号 JA3UB 局の検査をしてくれた魚留さん (JA1GZV) がモールス・キーに関することや電

信のことを100種類におよぶ電鍵のコレクションの一部を披露しながら講釈しておられた。無線通信の歴史からマニアもの等、アマチュア無線の原点はさておき、アマチュア無線を通じたボランティアや国際交流活動は活発で江戸時代からあったといわれる消防団と連携して防災、災害救援のネットワーク地域行事との連携、NPO/NGO とタイアップした国際援助活動等々。

そして国境、政治、人種、宗教に関わらず、お付き合いのできるハムならではの国際交流の輪が散見された。僕もトルコの TA2IJ、中国の BA1HAM、台湾の BV2NT 夫妻、韓国の HL1IFM、ベトナムの 3W6LI 夫妻等と歓談した。特に HL1IFM パクさんは同じユニセフハムクラブのメンバーであり SEANET コンベンションでもお



Ham2004 3W6LI & XYL

馴染みである。また 3W6LI ハウさんとは15年前に初めてベトナムの人達にアマチュア無線というものを紹介した時に会ってからずっとお付き合いが続きベトナムでもアマチュア無線が許可されるようになってベトナム人としては2番目に免許を得た人で VARC (ベトナムアマチュア無線連盟) の副会長でもある。

巷間アマチュア無線界は元気がないと言われている様であるが必ずしもそうではないと感じるのだが、一つ気になることがある。それは「アマチュア無線通信士」が極めて少ないように感じられる。アマチュア無線は無線工学や技術的な要素がある

馴染みである。また 3W6LI ハウさんとは15年前に初めてベトナムの人達にアマチュア無線というものを紹介した時に会ってからずっとお付き合いが続きベトナムでもアマチュア無線が許可されるようになってベトナム人としては2番目に免許を得た人で VARC (ベトナムアマチュア無線連盟) の副会長でもある。

巷間アマチュア無線界は元気がないと言われている様であるが必ずしもそうではないと感じるのだが、一つ気になることがある。それは「アマチュア無線通信士」が極めて少ないように感じられる。アマチュア無線は無線工学や技術的な要素がある



Ham2004 JA3UB & 3W6LI

ことに視点を奪われ過ぎたためか入門することが難しいようにおもわれていたようだ。メーカー製の無線機器が手軽に入手できるようになり操作も一見簡単になったために誰でもアマチュア無線が出来るようになったことは喜ばしいことである。がしかし通信技術を磨くことを疎かにした為か情報伝達能力や理解力が低下してしまっているようだ。

マイクを持ってパカチョン (これは不適切用語の指摘を受けるかもしれない) で喋ることは誰にでも出来るが、実際無線通信には「会話力」が必要なのだ。日常生活でも「日本語会話力」の凋落が目立つようになり仕事関係の電話で会話中に、思わず「日本語の通じる人と代わってください」と叫びたくなるようなことがある (笑)。

自動車運転免許を持っているだけでは「Good driver」とはいえないのと同じように「アマチュア無線技士」の免許を (*注「技術士」ではない) 持っているだけでは「アマチュア無線通信士」とは言い難い。皆がアマチュア無線通信士 = Good operator と称され、そのような人達がアマチュア無線の世界で多くなればハム界は一段と元気を増すだろうと感じた。

大阪国際交流センターラジオクラブ
JI3ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Newsletter
http://www.ja3.net/ji3zag_nl
会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール
毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会
大阪国際交流センター
毎月第2金曜日

一枚の写真から EA8/GWORTA/P の巻

JA3AER 荒川 泰蔵



1994年12月、英国駐在中の冬休みに XYL と共に我々としては初めてのアフリカ、カナリア諸島の一つ、Gran Canaria (首都 Las Palmas のある島) へ旅行した。勿論トランシーバー (IC-723) とアンテナ (R5) を引っさげてである。そしてホテルのベランダが突き出したアンテ

ナで EA8/GWORTA/P で QRV したが、CEPT ライセンスの有難いところである。アメリカ滞在中に N2ATT から QSO したことがある EA8NL, Severo に、事前に手紙を出しておいたのではあるが、幸い 14MHz で QSO でき、ホテルを訪ねてくれた。彼は地元のアマチュア無線クラブ (URL - Union de Radioaficionados Las Palmas) のクラブハウスに案内してくれ、多くのメンバーを紹介してくれた。またそこに設置されたクラブ局 EA8URL の設備 (IC-765 と 2 エレ八木アンテナ) の使用を認めてくれれば運用。ホテルからの運用を含め、僅か 31 局との QSO だったが、5 大陸 20 エンティティが含まれていた。写真は URL のクラブハウスで、セクレタリーの EA8BIK, Marcos (左) と EA8NL, Severo (右) と一緒に撮ったものである。そして、

もう一枚の写真は、翌日メンバー達が食事に招待してくれたレストランで撮ったものであるが、何と日本レストランであった。ご覧のように皆さんお箸を上手に扱い、自分専用のお箸を持っていることが自慢のようであった。この遠い国に、遠洋漁業の漁師さん達が残した日本文化が根付いていた。





UA3AB、RA3AUU 等 ロシアから来日

JA3USA 島本正敬

東京のハムフェアと秋葉原をひと目見ようと、モスクワから4人のハムが来日した。UA3AB、RA3AUU、RZ3AA、RW3AH、ロシアの超 DXer 揃い。UA3AB と RA3AUU とは 2000 年の A52A DX-pedition からの付き合い。プータン以後も on air で、Dayton や Friedrichshafen で、何度も顔を合わせている。

ハムフェア直前の木曜の朝に成田に着くなり、東京周辺を観光をしたり、最近モスクワでも楽しめるようになった日本食が本物と同じかどうか試してみたり。

せっかくの彼らの来日だし、僕にとっても10年ぶりのハムフェア。僕も金曜には東京へ。その夜、夕食に連れ出して、「やはりお寿司や刺身は日本の方がおいしい！来月も来ようか」、「Kabukicho って一体どんなところ？」馬鹿話で賑やかな夜を楽しんだ。翌日からはハムフェア。メーカー・ブースで質問攻め。販売店のブースでは無線機をあれこれと物色。日本以外では未だ販売していなかったはずの IC7800 を春から使っている UA3AB は JA3FA に会って感激。やってみたかった「JA からモスクワとの QSO」が実現しなかったのは残念だったけれど、短い日本へのハム旅行を楽しんだ。

国際 DX コンベンションが日本であれば、ロシアのハムをたくさん引き連れて押し寄せるとの言葉を残し、ハムフェア終了後の火曜日にモスクワに帰って行った。



ハムフェア

2004年8月21～22日

